

今こそ聞きたい！「非認知能力」を育む乳幼児・小学生の子育て講座 「どうする？子どもの『はじめの100か月』」【後半】

0:01 【スライド：①タイトル】

[音楽]

0:17 【スライド②】

ここがまた 1 つのポイントです。保育者との関係の質というものにも関心が最近寄せられていて研究がどんどん進んでいるところです。アタッチメントというのは要するに保護者だけとの関係に収支してなくて、色々な人との関係に広がっていくものなので、保育者との例えば愛着関係、基本的な信頼関係みたいなものが、どんな風にその後の人生につながっているかみたいなことも研究されていて、保育者と子供の関係の質は小学校 1 年生における教師と子供の関係の質に影響しているってことが分かっています。

なので、どういう園の先生と出会うかっていうのが、その後の小学校の先生との関係に影響くということが明らかになっています。それから園の保育者、学校の先生と子供の関係の質の高さっていうのが学業成績の高さにも影響してるね、関連してるねっていうようなことも分かってきているので、かなり安定した関係が先生と持てるっていうところが実はその後の学校での生活とかにも影響があるということなんです。どちらかというとなかなか色々な今研究が進んでるところなので、こうですっていうことを断言するのは私なんかにはちょっと難しいんですけども、でもその家庭内の養育の中での安定性と家庭外での専門家と出会っての、その先生との関係の安定性、どちらかというとその幼稚園とか園生活で出会う人との関係性の質っていうのがその後の学校での先生との関係の質にきいてるのではないかっていうなことも出てきているので

2:14 【スライド③】

そういうところもちょっと意識して、いろんな園が皆さんの生活の圏内にもあると思うんですけども、先生との関係の質っていうのを 1 つの観点にして見ていただき、選ぶっていうことがすごく大事なことです。選んでいただけるといいなっていう風に思っています。こんなことが分かっている質の高い保育者との出会いをって言っています。これは色々な長期縦断研究で分かっていることの大事なポイントです。

質の高い幼児教育が重要だっていうポイントです。何が質の高いなのかっていう話はこれからしていきますけれども、質が高くない場合に実はちょっとネガティブな影響があるっていうことも分かっています。ちょっとあんまり気持ちのいい話ではないのでスライドには入れませんでしたけれども、叱責をする保育者であったりだとか、怒鳴りつけるであるとかそれからコントロールが強いとか、そういう保育者の養育を受けた場合に子供の発達にネガティブな影響があるっていうことを明らかにした研究なんかも出てきています。

ですので質の高いことは非常に重要なんです。

なので例えば何かが色んな遊びの中でうまくいかなかった時に先生がどんな風にその子供に寄り添っているかっていうポイントなんかもちょっと見学に行った時にちらっと見てもらえるといいポイントかなっていう風に思います。そんな時に何やってんのとか言ったらちょっと大丈夫かなっていうことをちょっと考えてもらえると研究のエビデンス的にはそういうことが分かっているということです。幼児期の保育者と子供の関係がその後の教師と子供の関係の質に強く影響していくってということと幼児期の質の高い保育者との子供の関係は母親の愛着が不安定な子供の代償的な関係としても機能するこれは多くの研究でも言われてきていて、今注目されているところです。なのでちょっとハイリスクな家庭環境にいるお子さんであっても質の高い幼児教育と質の高い保育者に会うことによって回復するのではないかっていうことを希望を持っているわけですね。

4:41 【スライド④】

そういったところで研究が今進んできているということです。改めてその子供の権利保障とかいうことを考えていく時に大事にしたいよねっていうことは幼児教育の質ということにもなってきます。

4:51 【スライド⑤】

その中で大事にされてるのは遊びです。遊びってというのは私たち大人にとって、遊びっていうとなんかちょっと余暇っていうか、メインのことは他にあって、はあっていう時に、ちょっとカラオケに行こうかみたいな、学生なんかはちょっとよくそういうところに行きますけど、その遊びがその余分なものではないのです。

子供は朝遊ぶために起きて遊ぶために食べて遊ぶために寝るみたいな人たちですね。なのでメインが遊びなんです。生きるってということとはもう遊ぶがイコールぐらいの勢いの年代ですね。

なので乳幼児期の遊びってというのはもう本当に生活の中心そのものです。ポイントとして大事なことは、遊びは自発的なものだってことです。遊ばされるっていう状況はもはや遊びではないので遊びは自発的なもの、自分がやりたいと思ってやるのが遊びです。例えばそれがこんなものやってみないとか、こんな風に楽しいことあるよっていう風な誘いはもちろん色々あると思うんです。幼児教育の現場でもそうです。それになんか面白いなと思えないなと思ったら違うことに行けばいいっていう選択肢があったらいいんですけど、どうしてもその面白くなさそうなものをなんか大人に付き合ってやっていくっていうのは、それはもはや子供の遊びではないということになります。

なので子供の遊びと言ってるのは自発的なもので、遊び自体が目的って言ってるのは何々を習得させるために遊ばせるっていうのは遊びではないってことです。計算能力をつけさせるために認知的なおもちゃみたいなものをよく売ってますよね。子供にとってはそれ

が楽しくてやっていけばいいんです。だけどそれを習得させるためにやるっていうのはもはや遊びではないということですね。

6:54 【スライド⑥】

なので楽しみとか面白さを追求する行為が遊びだということなので、遊びは遊びなんですけれども、幼稚園の教育要領というのがあるんですね。これは、幼稚園の教育の内容を決めているものですね。大まかですけれども、そこに書かれていることは、遊びは学びだっていることをドカンと書いています。遊ぶこと自体が目的で楽しみや面白さが大事なんです。それはこういう風に書いてあります。「自発的な活動としての遊びは」です。なので幼稚園の教育の中心となってくるのは、この「自発的な活動としての遊びは」です。それが心身の調和の取れた発達の基礎を培う重要な学習であるってことを断言しています。これすごい文章だと私思ってるんですけども、重要なポイントはその自発的な活動が心身の調和の取れた発達です。何か 1 つ取り出して、例えば道徳性を育みましょうみたいに焦点を当てて何か取り出して教え込むみたいなことではないのです。それはそもそも遊びではないですしね。

そうではなくて、例えば竹ぽっくりとか皆さん小っちゃい頃やりましたか。あの竹の筒みたいなものの上に乗っかってこうやって歩くやつですね。面白いと思いませんか。わざわざ歩けるようになった人たちが歩きにくいものを足につけて歩こうとするっていうあのよく分からない面白さですけども、でもそれが面白いわけですね。自分に足かせをはめてうまくいかなくて転んだりすることを楽しんでやるってどういうこと？みたいに思いますが、それが楽しいわけですね。そこで育ってるものは、もちろん身体的な発達っていうのもありますよね。こうやって自分の体を動かす、コントロールするっていう運動能力の発達もありますし、筋力ももちろん発達するわけですけども、それがうまくいかないって、すぐにはうまくいかないわけですから、転んだりだとか痛いっていう思いをしたりだとかもう嫌だって放り出したくなるかもしれませんけど、でも小さい子供の場合は割とと楽観的なのですよね。嫌だと思ってもまたちょっと忘れてやろうとしたりだとか、隣の友達がうまくやられてるとなんか悔しくなってやろうとしたりだとか、いろんなことがあって心が動いていくで、ちょっとダメだったっていうか、失敗したりとかうまくいかなかったりとか、痛い思いをしたりとかしても、それからもう 1 回気持ちを持ち直してやり抜こうとするっていうのが、まさに今日の焦点が当たってる非認知の力です。

後でちょっと細かく出てきますけれども、そういうその心の、ざっくり言うと、そういう心の育ちみたいなものが一緒に育っていくということ遊びってすごく大事なんですよ。遊びの中でどこに関わっていついていつてるのかっていうことになりますが、子供の思いや願いの現れに私たちは関わっていくことが大事なんですけども、今の子供の自力でできる範囲っていうのは子供にとってはもはや面白くなくなってくるわけですね。面白いところっていうのはその外側です。

10:08 【スライド⑦】

ちょっと手助けがいるっていうところで、ここが面白いなっていう風に思っているので、ここにこそまさに知りたいこととか分かってほしいこととかできるようになりたいっていう風に子供が願っていることがこのちょっと手が届くっていうところ、ちょっと頑張ったらできそうなんだけど自分1人では難しいなっていうところがあの面白いところなので

10:28 【スライド⑧】

そこを遊びの中でやっていくと成長していくということになるわけですがけれども、これを専門的に言うと足場をかける関りっていう風に言います。今の子供が自力でできることはここら辺なんだけれどもその外側に行こうとしてきた時にそこに手助けをしていく。その周りにいる大人は、育ちつつあるものをあなたはここに関心持っているのねって、ここまでできるんだね、もうちょっとだねって、靴下ここまで履いてギってこう癩癩起こすみたいなことがありますよね。ちょっとくるっと回してかかとの位置をくるっと回してあげるとできたってなる、全てがこう私の力で出来上がりましたみたいに思えるあのポジティブさっていうのが幼児期のすごい良いところなので、本人が気づかないぐらいのちょっとした手助けをして自分でできたっていう風に思っていて肯定的に生きていく力がぐんぐんと伸びていくような足かけっていうのを専門的には大事にしていくということになります。

11:36 【スライド⑨】

そういう足場かけっていうことが十分にこなされているかなっていうのも、もしかして園見学とかに行かれる時にちょっと見てみるといいかもしれませんが、今注目されてるこの非認知の力っていうところをちょっとささっと見ていきます。

11:49 【スライド⑩】

これは最新のピザの結果です。日本はまた回復してきました。

ちょっと1回前のところは順位が落ちて大丈夫か日本みたいなことがまた騒がれていましたけれどもまた回復してきました。これをOECDの方はコロナレジリエンスな国だっていう風に日本のことを言いました。

12:15 【スライド⑪】

コロナみたいな過酷な状況の中で回復する力のある国だっていう風に言っていましたけれども、いわゆるそのテストで測れるっていうところともう1つあの生徒にアンケートを取っているっていうところがあります。

12:24 【スライド⑫】

その中で自律学習と自己効力感っていうところでこういうデータが出てきています。も

しまた再び休校したら自分でそれを行う自信がありますかっていうことを、自力で学校の勉強こなすことができますかとか、自分で学校の勉強の予定を立てられますかとかいうのをバーと聞いてるわけですけども、ちょっと自信がないですねっていう人がまあまあいるねって、それが OECD の 平均よりだいぶ低い 34 位ですねっていうようなことが出てきています。なので認知的なスキルと非認知の力っていうのが、大まかに 2 つ今関心の持たれてるところです。非認知の力大丈夫かなっていうところが気になるわけですね。

13:16 【スライド⑬】

いわゆる若年、無業者引きこもりの数みたいなものも子供・若者白書っていうところに出ています。75 万人の無業者若者の無業者がいるっていうようなデータがあったり、

13:39 【スライド⑭】

日本は自殺者が多いっていうのはどこかで聞いたことあるかと思いますけれども、15 歳から 34 歳の若いところでの死因のトップは自殺です。

13:51 【スライド⑮】

こういったところからちょっと前の調査になりますが、2019 年ですけども、国際比較の調査の中で日本の子供たち、若者たちの自己肯定感の低さというのが話題になりました。自分自身に満足しているっていうのももう圧倒的な低さが分かります。日本は文化的に私は自信ありますってあんまり言わないので、そういう意味で文化差もあるかなっていうことは言われましたけれども、それにしてもなんか低いよねっていうことが、色々と心配されたところでは。

14:23 【スライド⑯】

教育界もだいぶね変わってきましたし

14:30 【スライド⑰⑱】

子供のことを認めるっていうことで肯定的な教育が広まってきています。

14:36 【スライド⑲】

これが最新です。2023 年の国内の調査ですけども、自己認識、今の自分が好きだっていう人がかなりいますし、これいいなと思ったのは自分の親から愛されてると思うっていう人がなんと 97.7%っていう高さで明らかになってますので、だいぶ変わってきてるのかもしれないなっていうところです。

15:03 【スライド⑳】

自己肯定感についても、さっき見たような国際比較調査ですごく低いなと思ったのからは全然違うデータが出てきたかなというところでもあります。

15:14 【スライ②①】

これをなぜこういうことが大事かって言うと VUCA っていう言葉をどこかでお聞きになったことがあるでしょうか。不安定な不確実なことがもうどんどんこれから増えていってどうなるか分からない世の中をどうやって生き延びていくかっていうことなんですね。

15:35 【スライド②②】

そこに焦点を当てていった時に OECD がこんなことを言ってるわけです。スチューデント・エージェンシーっていうものを育てるのが重要なのではないかと。スチューデント・エージェンシーの概念そのものを幼児期に持ってくるのはちょっと難しいんですけど、でもどうということが求められると考えられているかという、変革を起こすために目標を設定してそれを振り返りながら責任ある行動を取るっていう、社会の中で起こってることを色々に超えながら仲間と協働したりだとか、自ら今ある色々な情報を知ることとか自分でできることを探すってことも大事なんだけれども、新たに友達と話したりとか仲間と協働して作り出したりとか、そういうようなことがこれから困難を乗り越えるためには大事だよ、まさにこのこれが出たすぐ後にコロナが起こったので、そうだよって、新たに自分たちがどうやって生き抜くか、困難を乗り越えるために知恵をみんなで振り絞りながら、合わせながらよりよくあろうとするっていう力を育てないといけないよねっていうことになってきました。

16:45 【スライド②③】

非認知の力自体は、さっきアメリカなんかでは、だいぶ前から続けて行われてる研究の中で分かってきて、どこかでお聞になったことがあるんじゃないかなと思う超有名な研究で言うとヘックマンの研究というのがあります。ノーベル経済学賞をもらった人ですね。質の高い幼児教育というのがここでも出てきます。質の高い幼児教育を提供したわけですが、その結果、子供たちが 40 歳ぐらいになってどうだったかみたいなことを追跡していたわけですね。

17:29 【スライド②④】

その結果、こういうような高校の卒業率が上がっていたり、月収が上がっていたり、持ち家率が上がっていたりみたいなことが明らかになって、国の経済的にもすごくいいですよみたいなことが出てきたので、各国の幼児教育の政策っていうのがこれにエネルギーを得て変わってきたっていうところでもあります。

17:59【スライド②⑤】

もう 1 つ先ほどのスライドにあげていたのは OECD の社会情動的スキルの報告書に書いてあることなんですけれども、スキルはスキルを生むっていうことを色々な研究から報告をしています。そのスキルはスキルを生むっていうのは、あることが分かったら次が知りたくなって、あることができるようになったら次ができるようになるっていう、スキルはスキルを生むのでだんだんと雪だるま式にスキルの輪が大きくなっていくよってという説が出てるんですけれども、そういうことがここで社会にインパクトを与えたことでもありました。

もう 1 つは認知と非認知は相互に影響を与え合っているということです。目標の達成とか他者との協働とか情動の制御とか要するに気持ちのコントロールみたいなことですね。色々な場面が出てくると思います。今日も今、気持ちのコントロールをしてゆらゆらとなってるところも気持ちのコントロールをしていたりとかするわけですね。そういうことの積み重ねの中で安定してくると色々なことに関心が向いてきます。

保育所の 0～1 歳ぐらいのクラスに入ってみせてもらっても本当にそうだなと思います。お母さんとお父さんと離れて不安定になって泣いて、泣いてる間はもうなんていうか世の中のことが嫌みみたいな感じがしますが、泣きが収まって安定してくるとあれなんだろうなって思って手が伸びてくるってことが起こります。世界に向かって開かれていくってところがそこから始まっていくので、やっぱりその情緒が安定したりコントロールができるようになってきて、やっとそのこっち側ですね、色々なことが知りたくなったり、わかるってことが面白いみたいなことにいったりするんで、こっちとこっちは総合に影響を与え合っていますよってということですね。なのでもうこっちが安定したらいろんなことに手が伸びていくっていうことがあるので非認知の能力っていうのはあの大事なんだねっていうことが出てきたわけです。ちょっと言い忘れたかもしれません。

20:07【スライド②⑥②⑦】

このヘックマンの研究の中で出てきているのがこの自制心、自分の気持ちをコントロールするっていうこととか粘り強くやり続けるであるとか、ちょっと難しいことって今色々ありますよね、世の中。なので困難に突き当たってもでも簡単に諦めずに、例えば泥団子作っててうまくできないとか崩れちゃったとか昨日作ってたのが乾いちゃったとかいろんなことが起こりますけど、その時に綺麗に作るのが上手な人に聞いたりとか色々調べたりとかいろんな工夫をしたりとかちょっとやそっとのことでは諦めずに自分の目標となる、例えばピカピカの泥団子を作ろうとすることができるといってその粘り強さとか、それから動機付けってというのは自分の中に自分のその出発点があるってことです。なので誰かから泥団子を作りなさいって言われて作ってんじゃなくて作りたいと思って作ってという、そういうことを身につけていた人がその後の人生幸せに生きてる傾向が高いねっていうことなわけです。

21:11 【スライド②⑧②⑨③⑩】

なのでそういう研究の色々なエビデンスを持ってきて、非認知能力って大事なんだねっていうことが出てきたわけですけども、非認知能力ってものすごくざっくりとした概念なんですよ。色々あれもこれも認知以外みたいなこと言われてますけれども、ここにこうあげてるだけでもちょっと気が遠くなるぐらいいっぱいありそうですね。これをちょっと説明しようかなと思ってましたけど、その時間がなさそうなので関心のある方はこの小塩先生の本に、ちょっと難しいかもしれませんが、こういう概念の説明の本なんかも出てますので、色々非認知能力は本なんかも出てるので見ていただけたらいいかなと思います。こんなにいっぱいあるのどうやって育てるのっていうことになりますね。

22:04 【スライド③①】

それが質の高い幼児教育に皆さん頼ってみましょうよってことなわけです。もう家の中でこんな全部抱えきれませんわねっていうね。

22:13 【スライド③②】

なので幼児教育っていうものの質の高いっていうことを私はさっきから何度か言ってますけれども質ってどうやって見るのかって専門家でもすごく難しいので大きく大まかに今日は2つをお伝えします。

1つは例えば先生1人につき子供何人かみたいな構造の質と言われるものです。今こども家庭庁で（意見募集）パブリックコメントをしてますので、関心のある方は見ていただけたらと思いますけど、保育者1人に対して子供が何人までっていうのは法律でも規制されていることです。なので行政的なコントロールがききやすいっていうことで構造の質にこれまで関心が寄せられてきたんですけども、でも今研究で分かってきているのはどうもこっちのプロセスの質の方が子供の発達には影響があるねっていうことが分かってきています。プロセスの質というのは今私が今日お話ししている、先生がどう関わっているかっていうことですね。先生だけではなく子供が何に関わって、どのようになんか考えたりとか、いわゆるそのやり取りを物と人とその状況とにどうやり取りをしているかっていうことなんですけれども、そこで情緒的な温かさがあるとか、主体的に自分でこう遊んでいたりとかそこに適切な援助があるとかいうようなことをプロセスの質として見ていきます。

23:51 【スライド③③】

ここが大事ですよっていうことが分かってきてるんですけども、幼児教育の質と子供の発達への関心が高まってはきていますが、幼児教育の質の高さって特に大事なのはどうもプロセスの質らしいということですね。なのでものすごくざっくりと言うと、園を選ぶ時に綺麗な園だといいなと思うかもしれないんですけど、ヨーロッパのおもちゃなんかはずらっと並んでるといいなと思うかもしれませんが、それだけで良いとは限りません。ど

うしてかと言うと物的な環境構成とどうやり取りしてるかが大事だからです。なので子供が例えば自由に使えるかどうかとか、使ってる時に先生がどんな風に関わってるか、それそんな風に使うんじゃないのとかって言われたら、もうそれこそネガティブな感じになってくるので、そうではなく子供が自由に使えて色々に探索できて探求できてそこで考えてることを先生が聞いてくれて面白いねって、なんでなんだろうって言って一緒に考え続けてくれる、これが1つのポイントです。子供は不思議なことにいっぱい出会います。そこで、こうだからそんな積み方したら潰れちゃうよとかとか先は知って先回りして答えを教えるのではなく、子供がその難しい状況になんでだろう、こうやったらうまくいかない、こうやってもうまくいかない、どうしたらいいのかなって、工夫したり考えたりするっていうところを支える。一緒に考えていくってことがすごく大事なんです。そういうその幼児教育の質の高さっていうものがある時に、子供の学業成績とか色々なスキル、社会性の育ちの良さっていうのが関連している。もう一方で問題行動が低くなる、問題の少なさっていうのが見出されているっていうことなんです。なので本当にこの幼児教育の質の高さっていうのは大事なんだなということにえなりますけれども、

25:39 【スライド③④】

残り時間が少なくなってきました。ここが皆さんにお伝えしたいところですが、先ほどのなた豆は実は下に降るともうすでに違う豆が育てられていました。奥はエンド豆です。手前はスナップエンドウです。違うプランターには空豆が植わっていました。先生は、子供ってすぐに忘れるので今が大事なので、長期的な見通しを持つっていうことが苦手です。そういうことに出会わせていくってということにはやっぱりその何かを育てるっていうことがすごく効果的な教材になってくるわけですが、何かを育てるってものを毎年やっぱり教材研究をしっかりとるわけですね。それがやっぱり子供にとってどういう経験になるかっていうことを考えるわけです。その時に枝豆とかは山ほど今までやってきたけど、それ以外の豆ってどんなんがあるのかなって見ていった時に、『ジャックと豆の木』面白そうだなって、ぐっ伸びるなんて面白そうだなっていうので選んだそうなんですけれども、なた豆を育てて、それだけではなくてやっぱりいろんな豆も育ててみたいなのというので

26:53 【スライド③⑤】

あずきを育てたり、色々大豆を育てたりしています。私が10月18日見に行った時の青々とした収穫したてのなた豆です。初めて見ました。それがこの間1月12日に行った時には乾燥してカリカリのパリパリになっていました。パリパリになってる時に先生がこれ割ってみようかと言って割ってみようとしたら、やるやるって言って子供たちがそのそれこそ自分でやりたいことを見つけたみたいない感じでパリパリってやってやると直接的にそのなた豆に触れてなた豆ってことを知ることになってきますね。こないだまで緑色だったのが色も変わって手触りも本当にパリパリでした。開けるとこの中から白いなた豆が出て

きてツルツルなんです。ガサガサしたものからツルツルのものが出てきて、わって言って、子供ってなんだか知らないけどすぐ匂いませんか。匂ったら、臭っとか言ってるんです。そういうその手触りとかツルツルとかその色つや感とかいろんなものがここには含まれていて、ここに大豆が置かれていたたり、あずきも育てたのでこの前あんこパーティーをしたらしいんですけども、そうやってその経験っていうのを長期に繋げていきながら色々な経験を含ませていく、ここにはあの謎の種がまた届いてあって、この謎の種って誰が持ってきたんやとか何の種なんやとかいうような探求がここから広がってさらに広がっていったるわけですけども、常に色々な素材と組み合わせていくんですね。生き物とか植物とかだけではなくって、文化財とか絵本とか図鑑とかいうものと組み合わせていっています。なので全体というかこのなた豆の周りにはこんな環境もあって、1つの素材から色々な直接体験に広がっていくようにされています。

28:48【スライド③⑥】

話し合ったり考えたり、今日は子供の写真を入れてませんが、こうやって顔を付き合わせながらこれなあとか言って虫メガネで見てる子供もいましたし、電子顕微鏡みたいなものも置いてありますね。

29:02【スライド③⑦】

子供がやりたいとか知りたいとか思った時にすぐできるように、これは紙飛行機です。紙飛行機も色々作っています。紙の硬さとか大きさとか大人からしたらその紙でやる？みたいなものとかまで先生はこういろんな紙を試してみれるように教材を置いておきます。するともう私なんか本当びっくりしましたが、段ボール紙みたいなものでも作ってみたりとか、それ重くないとか、私だったらやらないなみたいなこともいっぱいやって試しています。重ねてみたらどう飛ぶかなとか飛行機の長さが長いものもあれば色を重ねてみたものもあれば、

29:41【スライド③⑧】

飛び方を、ずっと飛ばせるのかシュッと飛ばせるのかとか、それからまっすぐ飛んでいく長く飛んでいくものもあれば

29:46【スライド③⑨】

くるくる回るようなものもあったりとかしますね。アイスクリームを本物みたいに作りたいと思ってやっていく人たちの様子を見て、こういうような環境を先生が構成したりして、みんなのアイス屋さん、これいいと思いませんか。私の私だけのアイスじゃなくてみんなのアイス屋さんっていうのを開いてお客さんに来てほしいなっていう風にやってる人がいたらハンバーガ屋さんをやりたくなる人もいるわけですね。

いろんなお店のやり取りを見ていると本物らしくなっていくので子供の言葉も変わってきます。ですます調になってお店の人らしくなっていきます。社会での様子っていうのを学ぶんですね。

30:24 【スライド④⑩】

そんな中で字も使いたくなるし数字も使いたくなります。これ何だと思いませんか。観客席です。色々なステージごっこをやっている子供が背のところに劇場とか映画館とか行くと数字が書いてありますね。これはどうもお母さんたちはここを見てここだって言ってる、どうも大事な情報らしいというのが分かって、自分でも遊びの中で使いたくなるっていうようなことだったりとか、

30:52 【スライド④⑪】

これはまた秋の小学校でも秋見つけっていうような活動をやったりしますが、こんなにたくさん先生が用意しておいてあると、もうワクワク心が動いていきますね。心が動いていくっていうだけではなくて色々な触ったり試したりしていく中で、素材の特徴とか数とか重さとか長さとか形とか音とかの違いにも気づいていきます。

31:15 【スライド④⑫】

それに気づきやすいように、こういう気づきを明確にする手立て、イメージを豊かにする手立て、知りたいが膨らむ手立てというのを繊細に丁寧に教師は、保育者は作っていきます。

31:26 【スライド④⑬】

また美や文化に出会うとかいうことも合わせて行われていたり、

31:35 【スライド④⑭】

こういう同じ紙でも違う大きさだったり、色のグラデーションが試せたり、丸まる紙だったり、同じ大きさでも違う紙っていう風に書いてあるんですけど、面白いなと思って折り紙と同じ大きさの紙が切って置いてあったりしていました。それはその子供が関心を持って使っているものを見て教師はあれが明日必要だなと思って用意をしていきます。

31:54 【スライド④⑮】

分類して見せるっていう時に先生たち本当に上手に作っています。白いトレーがあることで上の置いてあるものが浮いて見えるんですね。よく見えますね。

32:05 【スライド④⑯】

これもその色々な素材を積み合わせて遊んで欲しいって思って、願っている時に先生が準

備した細やかな環境です。本当に自分ではちょっとやるのが難しくても布を細かく切るとか、やっぱり子供さんには難しいですけど、

32:25 【スライド④7】

こういう風に用意してあるとこんな可愛らしいどんぐりのマフラーができたりなんかして、こういう世界が作れる私の嬉しさ、自己肯定感、喜びってものにつがっていくわけです。

32:36 【スライド④8】

これはどんぐりちゃんたちがテレビを見ているんですけど、例えばですよ、あのテーブルがちょっと傾いちゃったってところに納得がいかないっていう風になってくると、ここで自分のイメージを形にするにはどうしたらいいかなってさらに考えるわけです。材料なのか、つけ方なのか、そこでいろんな材料にもう1回出会っていく。

32:55 【スライド④9】

これはどんぐり転がしのところですけども、同じどんぐりでも違う遊び方ですね。同じ転がすでも色々な音がする。ものがプラスチックの素材だったり紙の素材だったり、いろんなことを試していくことができるようになっていきます。

33:16 【スライド⑤0】

こういう風に色々な豊かな環境を子供の創造性の羽が存分に広げられるように用意して

33:23 【スライド⑤1】

子供が主体的に自発的に遊びの中で学んでいくことができるようにしていくというのが質の高い幼児教育です。

33:37 【スライド⑤2】

ですのでこういう環境を丁寧に作ってあるっていう園が皆さんのお近くにあると是非未就園の時から遊びに行ったりして頼りにしていただけるといいなという風に思います。

33:51 【スライド⑤3】

こうやってね、子供たち本当に色々な遊びますが、その環境を構成していくのは先生の力です。

33:58 【スライド⑤4】

木の実だけじゃないいろんな葉っぱもあったりいろんな音がするものもあったりいろんな

色に出会ったりして、そういうものが使いたくなってこういう恐竜ランドができてたんですけど

34:10【スライド55】

ちょっとも先に行っちゃいましたね。

34:17【スライド56】

本当にクリエイティブな世界っていうのを子供たちは自由な羽を広げて伸ばして遊んでいきます。これなんだろうって思うでしょ。これが先生の引っかけなんです。そうやって思わされると作りたくなるって言って、

34:31【スライド57】

作りたくなったらすぐに横に作れる環境がある。こういう風に子供がやりたいと思ったらすぐにできるっていう仕掛けがあるということが幼児教育ではすごく大事です。やりたいと思った時にすぐに遊べる遊びが十分にできる。

34:45【スライド58】

その中で保育者が応答的で優しく、いつでも頼ることができる人であるかどうか、そしてそういうことを先生たちは研修を通してよく学んでいるかどうか、それから発達にふさわしい教育のカリキュラムがあるか、先取りして小学校のことを幼稚園でやるっていうことではなくて、今見てもらったみたいに子供たちはやりたくなったら書きます。文字も数字も読めるようにもなります。それは関心の中で遊びの中でです。そういうことが教え込んでやるのではなくて、子供はやりたいと思って覚えたいと思って伝えたいと思って、文字を学び書くようになります。その時にちょっと教えてって言われたら、その時にそれこそ学びの時間がやってきてるので、それはねって言って横について一緒に書いたりしていきます。そうやってその発達にふさわしい教育カリキュラムがあるっていうこととかが、相互作用のやり取りの質の高さが、子供の教育の質を担保するにはすごく大事ですってことも分かっているのでは是非そういう視点も持って見ていただけたらなと思います。

35:50【スライド59】

なんともう時間なので、

35:55【スライド60】

こういうことを今日はお伝えできたらと思ったところでした。子供の学びとそれからを中心としてみた時に、左側、温かく繊細なやり取りとそれから教育に

36:08 【スライド61】

ふさわしい教材の提供というものが子供の思いや願い、主体性の尊重、育ちの質の保証

36:15 【スライド62】

というものを確かにしていくのではないのでしょうか。是非参考にさせていただけたらと思います。どうもありがとうございました。

36:27